

かつては島内産果物の主力商品

路果樹協会の岡野佳一会長(68)が、淡路市内で栽培拡大に取り組んでいる。「旧津名町は見わたす限りの果樹園が広がり、果実を運ぶトラックがたくさん走っていた」と懐かしむ。丁寧に苗木を植えながら、古き良き町のにぎわいに思いをはせる。(内田世紀)

ナルトオレンジ復権を

ナルトオレンジは約イヨカンやハッサクな50年前まで島内の多くで甘みの強い品種に押しの果樹農家が生産。され生産が激減。現芳醇な香りとほろ苦在では十数軒の農家が魅力の、淡路独自の栽培するのみとなった。の果物として全国的な。人気を誇った。しかし、岡野さんは約10軒の

岡野佳一・淡路果樹協会会長



一本一本丁寧に苗木を植える、岡野佳一淡路果樹協会会長。淡路市入谷

淡路市内 栽培拡大へ苗木50本植栽

果樹園でナルトオレンジを生産。インターネット販売や菓子の加工用などで根強い人気があり、数年前から増産を考えた。「苗木を作るのに2年、実がなるのに4～5年、出荷が安定するには10年もかかる」と悩みに悩んだ。しかし「淡路の名物を後世に残したい。年齢的にも最後のチャンス」と挑戦を決めた。

2年前に苗木を発注し、所有する山の土地約10軒に堆肥を入れるなど整備。4月初めに苗木50本を植栽した。今後もイノシシの防護柵を設置するなど苦労が続く。「10年後に元気でいられるかは分からないが、この木だけは守るよう息子にも頼んでいる」と笑う岡野さん。島の経済を支えた「看板商品」の復権を目指す。